

取組の概要

対象畜種

豚

協議会構成員

金山最上牧場、耕種農家、金山農業協同組合、くみあい飼料、金山町、山形県最上総合支庁農業技術普及課 等

飼料用米生産面積

1.6ha

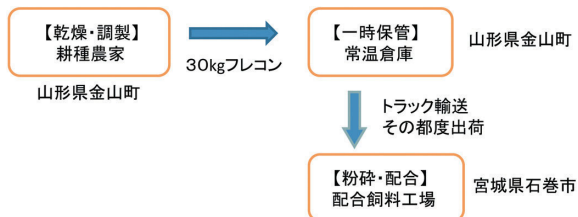
供試品種

夢あおば 1.2ha

べごあおば 0.4ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆主食用米との区分を図るため、生産者を限定し専用品種を栽培。
- ◆収穫物は金山農協に全量集荷
- ◆JA倉庫から配合飼料工場までの移送は、飼料会社の手配により確保し実施。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査（畜産物の成分分析を含む）

試験設計：肥育後期出荷前20日間に配合飼料の10%に配合（予定）

調査項目：1. 飼料用米給与肥育豚の増体調査（予定）
飼料用米給与肥育豚の出荷時体重の測定

肥育期間の調査

日増体重の比較

2. 肉質の調査（予定）

官能評価（色・硬さ・香り・味など）

アンケートの実施

③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

◆消費者へのPR活動（予定）

消費促進PRポスター・パンフレット作成

消費者による食味アンケートの実施

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 配合飼料工場までの移送は、破碎等の事故もなく実施できました。
- 生産現場については、異品種混入防止のため、不特定多数の生産は難しいと思われます。
- 一年を通じての供給となることから、夏場の保管管理の徹底が必要だと思われます。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 飼料用米給与による豚肉への影響調査については、本年9月頃から調査を開始する予定となっています。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 消費者へのPR活動を通じて、飼料米給与豚肉のブランド化を図っていき たい。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 平成21年度は飼料用米の作付面積を25haに拡大し、取組を継続していく。
- 飼料用米の生産性向上を図るために、地域の気象条件等に適応した品種選定や低コスト・多収栽培技術等の普及定着
- 飼料用米を給与した豚肉のブランド化
- 堆肥を活用した資源循環型農業の実践 等

JA金山営農課 星川 憲一

参考データ・写真等

刈取作業風景



玄米の様子

